

田んぼの生物多様性向上 10年プロジェクトの概要とその背景

ラムサール・ネットワーク日本/日本雁を保護する会 呉地正行

●なぜ「田んぼの生物多様性向上 10年プロジェクト」なのか：かつては当たり前に見られた田んぼの生きものが、今急速に消えようとしている。これらが、農業、環境、及び心を支える底力となっていることに注目し、その多様な世界を再び取り戻すための受け皿となる「田んぼの生物多様性向上 10年プロジェクト」（以下、「田んぼ 10年プロジェクト」）を開始した。2008年にはラムサール条約 COP10 で、水田の生物多様性向上をめざす「水田決議 X.31」が採択され、2010年には生物多様性条約（CBD）COP10 で、ラムサールの水田決議を取り込んだ「農業生物多様性」決定 X/34 が採択された。更に CBD COP10 では、生物多様性を回復するための「愛知目標」の決定と「国連生物多様性の向上 10年」を国連に求め、国連総会で採択された。

これらの流れを活かし、ラムネット J では、各地で田んぼの生きものに関心や関わりを持つ方々が集える場となる「田んぼ 10年プロジェクト」を立ち上げ、この場を使ってお互いの交流を深め、それぞれの立場から、参加者が田んぼの生きものにぎわいをめざす具体的な目標を掲げ、一つ傘の下に未来へ向けて歩んでゆきたいと考えている。

●世界との約束（愛知目標）を実現する田んぼ 10年プロジェクト

2010年に名古屋で開催された CBD COP10 では、これからの 10年をかけて、生物多様性の回復をめざす、20 の具体目標（愛知目標）が、採択され、これをもっと幅広く取り組むことができる枠組みとして、「国連生物多様性の 10年」も立ち上がった。田んぼ 10年プロジェクトは、ラムサール条約と生物多様性条約を水田の生物多様性でつなぎ、両条約で採択された田んぼの生物多様性向上決議の内容を国連生物多様性の 10年の中に位置づけ、多様な取り組みを具体化する受け皿となることをめざしている。これまで各地で個別に行われてきた田んぼの生きものと人々の持続可能な暮らしを取り戻す様々な活動を、このプロジェクトで束ねて、よい事例を共有・拡大し、より大きな力にすることをこの取り組みはめざしている。田んぼの生物多様性に関心を持つ全国の農業関係者や市民などに広く参加を呼びかけ、様々な方々と協働し、田んぼの生物多様性を高める具体的な行動を支援し、生物多様性を活かした地域づくりの輪の拡大をめざす。ここではこれまでの経緯とその進捗状況について触れる。同プロジェクトは、国連生物多様性の 10年日本委員会の 10 の認定連携事業にも選ばれ、その成果が大きく期待されている。

http://undb.jp/activity/accredited_01.html

詳細を知りたい方及び参加希望の方はラムネット J ホームページをご覧ください。

<http://www.ramnet.j.org/>

